

「かかりつけ医と薬の処方」に関する 調査レポート

2022年8月23日

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター病院



AMR 臨床リファレンスセンター

Antimicrobial Resistance Clinical Reference Center

厚生労働省委託事業

「かかりつけ医と薬の処方」に関する調査レポート

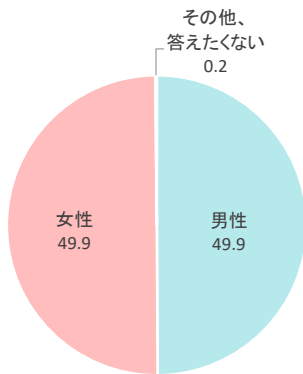
調査概要

調査機関	国立研究開発法人 国立国際医療研究センター病院 AMR臨床リファレンスセンター
調査対象者	全国の20歳以上で、5年以内に病院・診療所・クリニックで診察を受けた方 * 健康診断や新型コロナウイルスのワクチン接種などでの受診を除く
有効回答数	601サンプル (20代/30代/40代/50代/60代以上の5つの年代属性で男女各60名ずつ) * 性別「その他」と回答した方は割付外とする
調査手法	インターネット調査
調査実施日	2022年5月18日 (水)
調査実施会社	株式会社one
調査結果の見方	<ul style="list-style-type: none"> ・nは回答者数を表している。 ・回答率(%)は小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示している。このため、合計数値は必ずしも100%とはならない場合がある。 ・設問の回答には、単一回答と複数回答がある。複数回答の設問は、回答率(%)の合計が100%を超える場合がある。

回答者属性

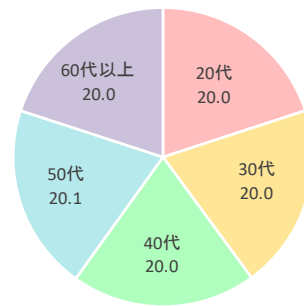
性別

(n=601)



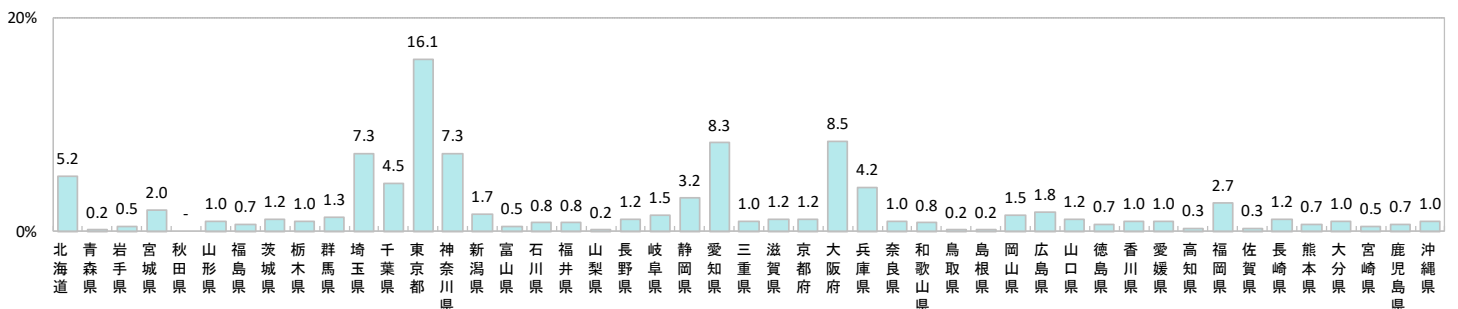
年代

(n=601)



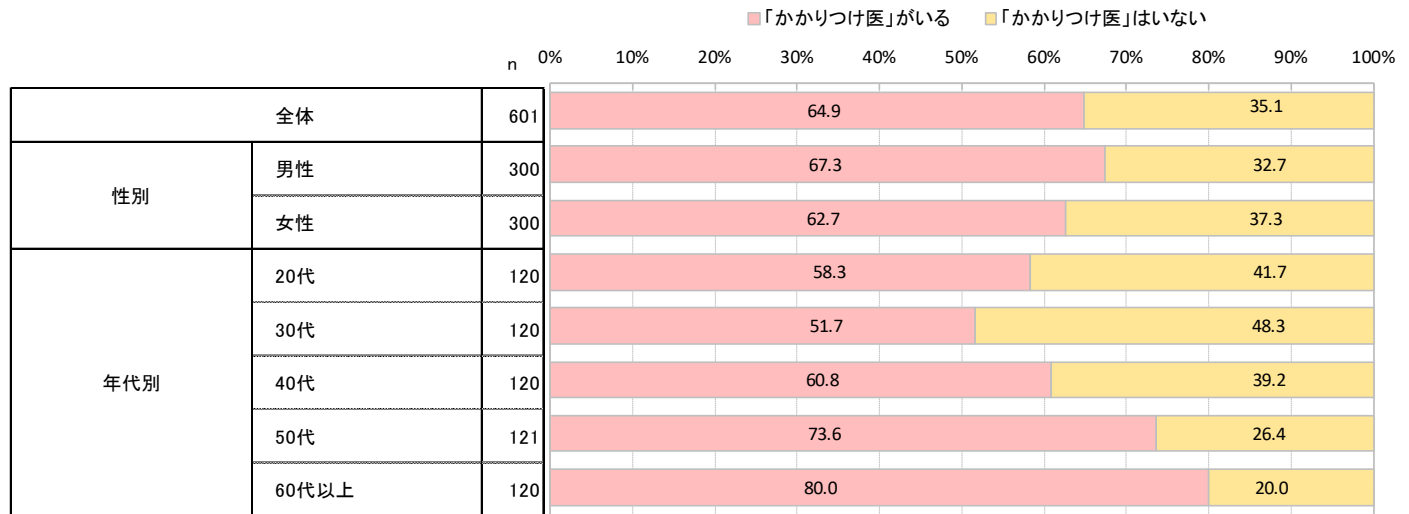
居住地

(n=601)



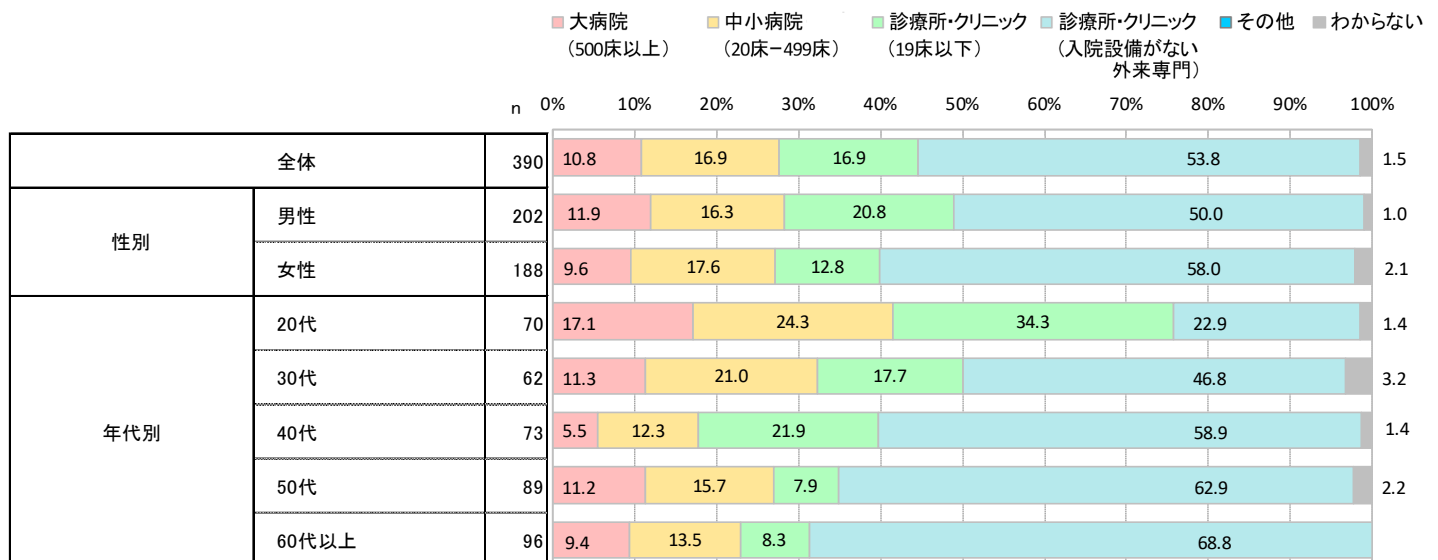
Q1. あなたには「かかりつけ医」がいますか。(答えは1つ)

■「かかりつけ医」がいるのは、全体の65%、60代以上は80%であった。



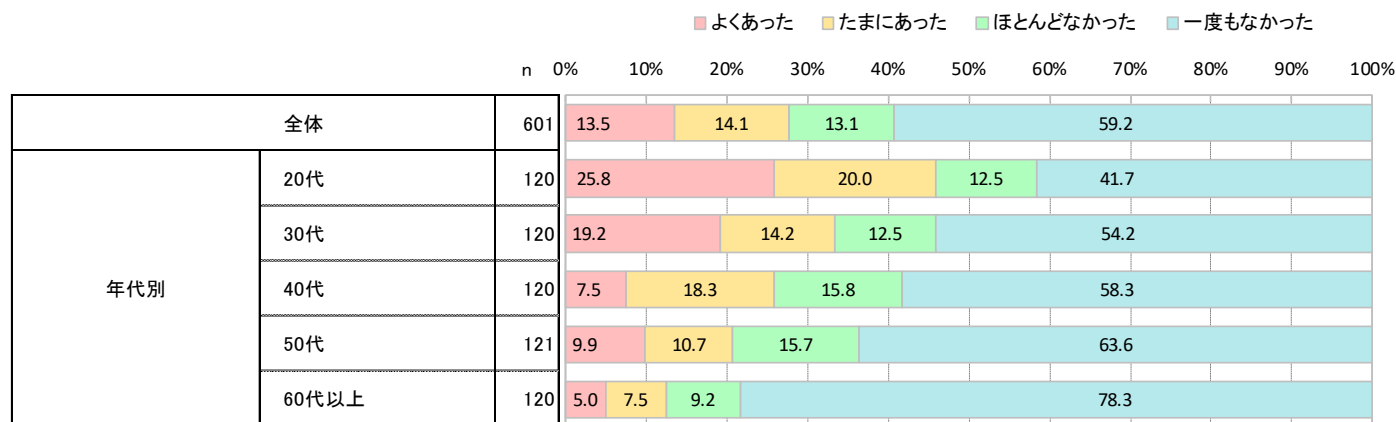
Q2. あなたの「かかりつけ医」がいる病院・診療所・クリニックについて、あてはまるものを教えてください。(答えは1つ)

■かかりつけ医が所属する施設で最も多いのは、「診療所・クリニック(入院設備がない外来専門)」(53.8%)である。次いで「診療所・クリニック(19床以下)」(16.9%)、「中小病院(20床-499床)」(16.9%)、「大病院(500床以上)」(10.8%)と続く。



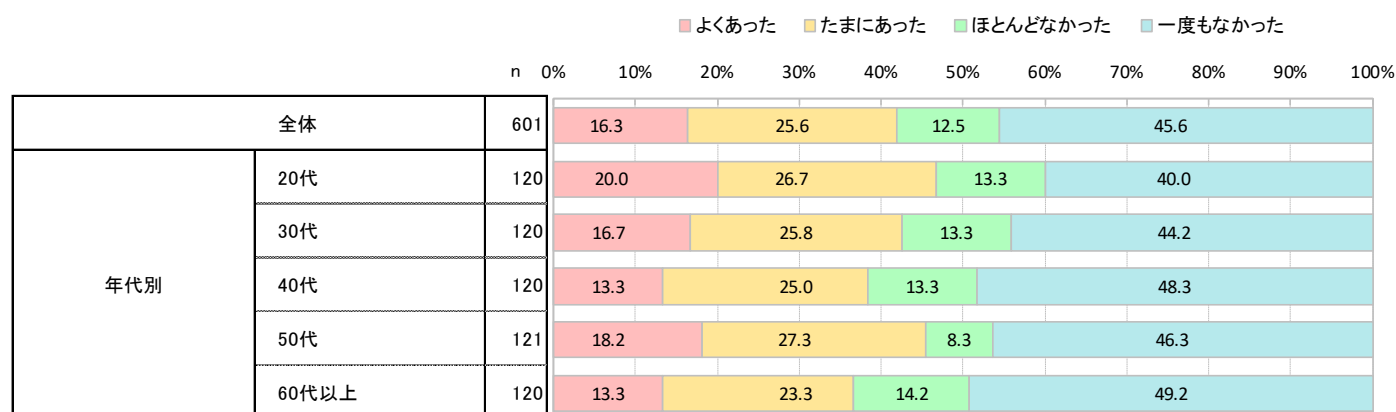
Q3s1. あなたは過去5年間に、医師の診察時に飲みやすい形状(錠剤、散剤(粉薬)など)を希望することはありましたか。(答えはそれぞれ1つ)

- 飲みやすい形状(錠剤、散剤(粉薬)など)を希望することに関して、「一度もなかった」(59.2%)が最も多かった。次いで「たまにあった」(14.1%)、「よくあった」(13.5%)、「ほとんどなかった」(13.1%)と続く。
- 若い世代ほど、薬の形状に関して希望することが多い一方で、60代以上は「一度もなかった」人が約8割であった。



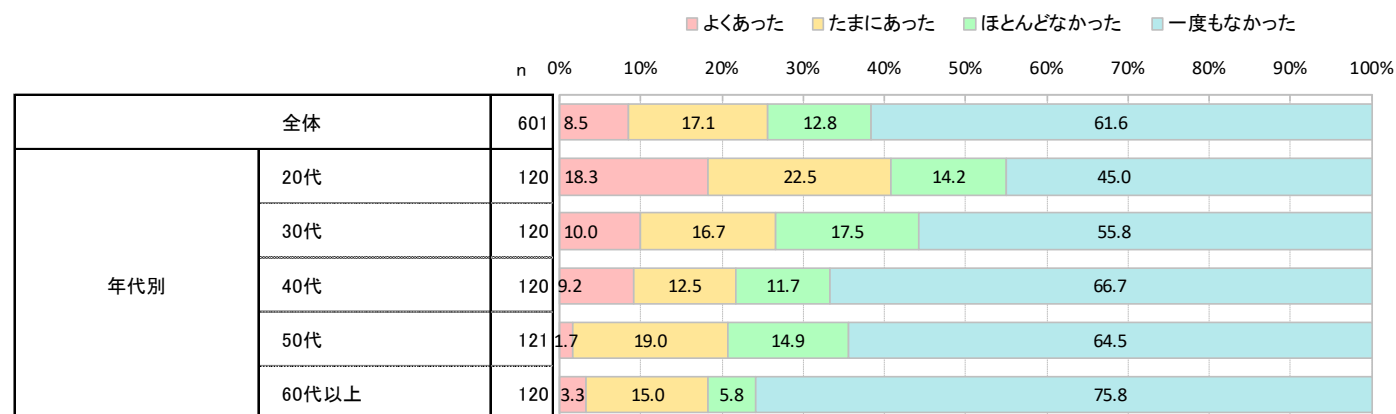
Q3s2. あなたは過去5年間に、医師の診察時できるだけ長い日数分の薬を出してもらえるように要望をすることはありましたか。(答えはそれぞれ1つ)

- できるだけ長い日数分の薬を出してもらおう要望に関して、「一度もなかった」(45.6%)が最も多く、次いで「たまにあった」(25.6%)、「よくあった」(16.3%)、「ほとんどなかった」(12.5%)と続く。



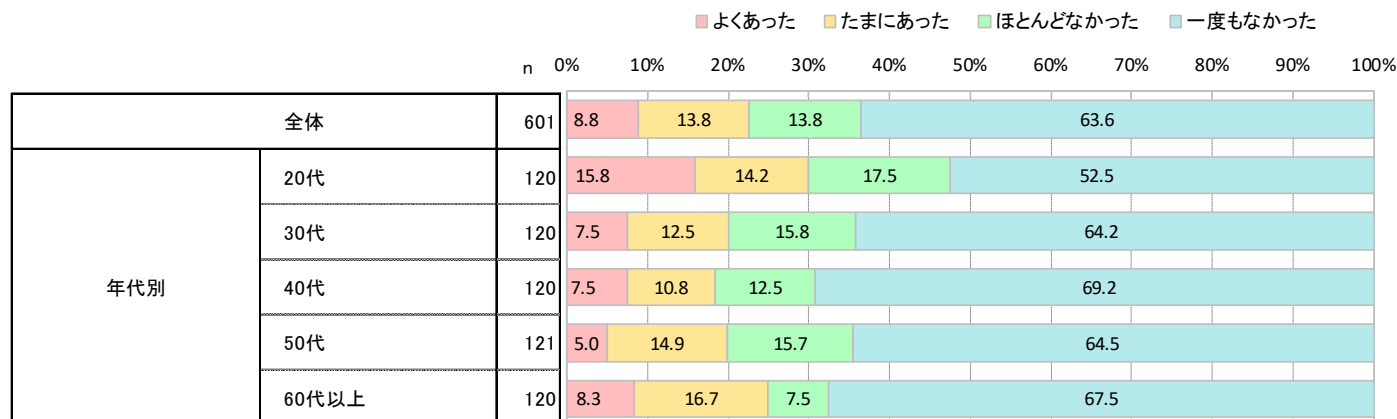
Q3s3. あなたは過去5年間に、医師の診察時にいま症状がなくても後で出るかもしれない症状の薬を念のため出してもらおう要望をすることはありましたか。(答えはそれぞれ1つ)

- 念のため薬をもらう要望は、「一度もなかった」(61.6%)が最も多く、次いで「たまにあった」(17.1%)、「ほとんどなかった」(12.8%)、「よくあった」(8.5%)と続く。



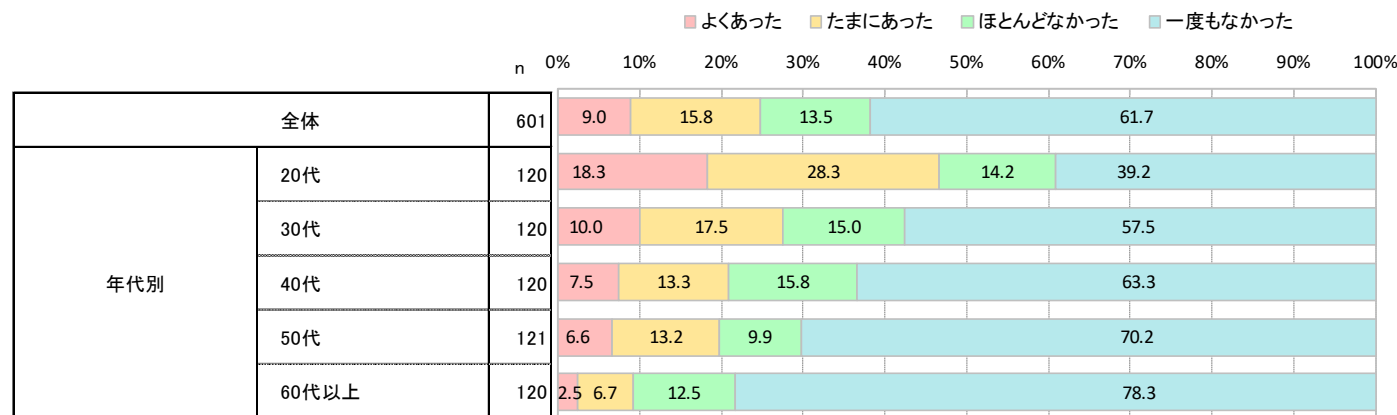
**Q3s4. あなたは過去5年間に、医師の診察時に主訴以外に用いる薬を
ついでにもらう要望をすることはありましたか。(答えはそれぞれ1つ)**

- 主訴以外に薬をもらう要望に関しては、「一度もなかった」(63.6%)のが最も多く、次いで「たまにあった」(13.8%)、「ほとんどなかった」(13.8%)、「よくあった」(8.8%)と続く。



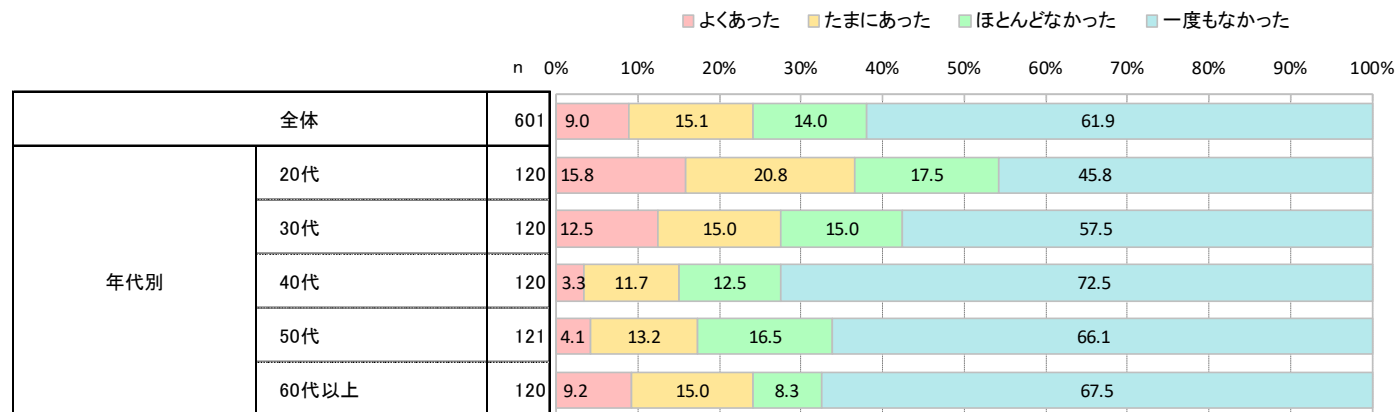
**Q3s5. あなたは過去5年間に、医師の診察時に市販で入手できない薬(抗菌薬・抗生物質など)を
出してもらう要望をすることはありましたか。(答えはそれぞれ1つ)**

- 市販で入手できない薬(抗菌薬・抗生物質など)を出してもらう要望は、「一度もなかった」(61.7%)が最も多かった。次いで「たまにあった」(15.8%)、「ほとんどなかった」(13.5%)、「よくあった」(9.0%)と続く。
- 若い世代ほど市販で入手できない薬(抗菌薬・抗生物質など)を要望することが多い一方で、60代以上は「一度もなかった」人が約8割であった。



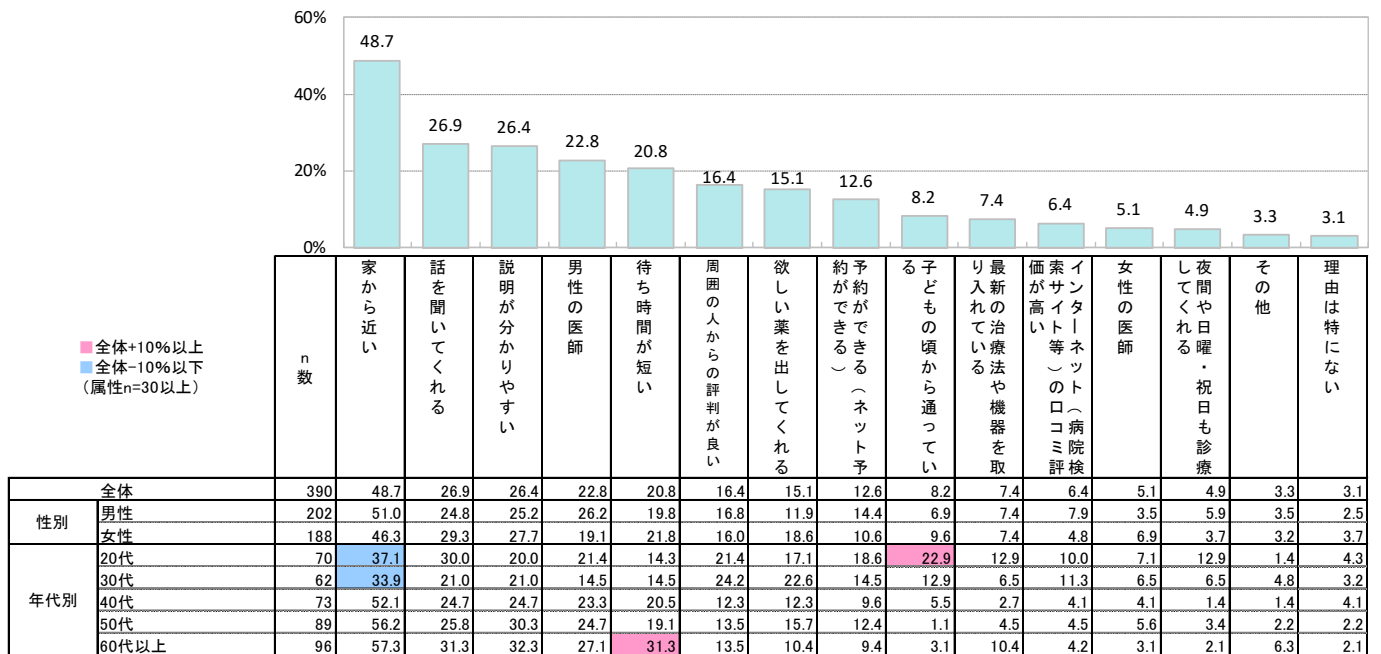
**Q3s6. あなたは過去5年間に、医師の診察時に市販で買えるが保険適用で安く入手できる薬
(鎮痛剤やシップなど)を出してもらう要望をすることはありましたか。(答えはそれぞれ1つ)**

- 市販でも買える薬を保険適用で要望することは、「一度もなかった」(61.9%)が最も多く、次いで「たまにあった」(15.1%)、「ほとんどなかった」(14.0%)、「よくあった」(9.0%)と続く。



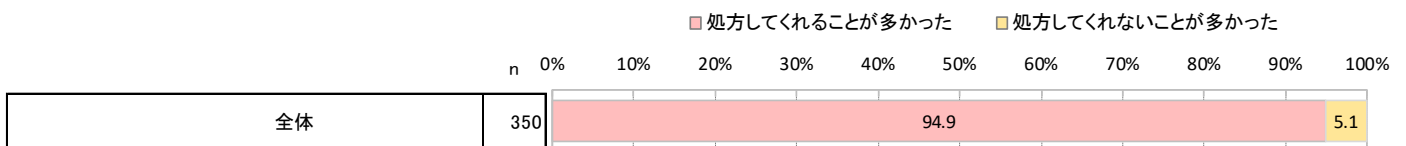
Q4. あなたがその「かかりつけ医」に通う理由を教えてください。(答えはいくつでも)

- かかりつけ医に通う理由について最も多いのは、「家から近い」(48.7%)である。次いで「話を聞いてくれる」(26.9%)、「説明が分かりやすい」(26.4%)、「男性の医師」(22.8%)と続く。



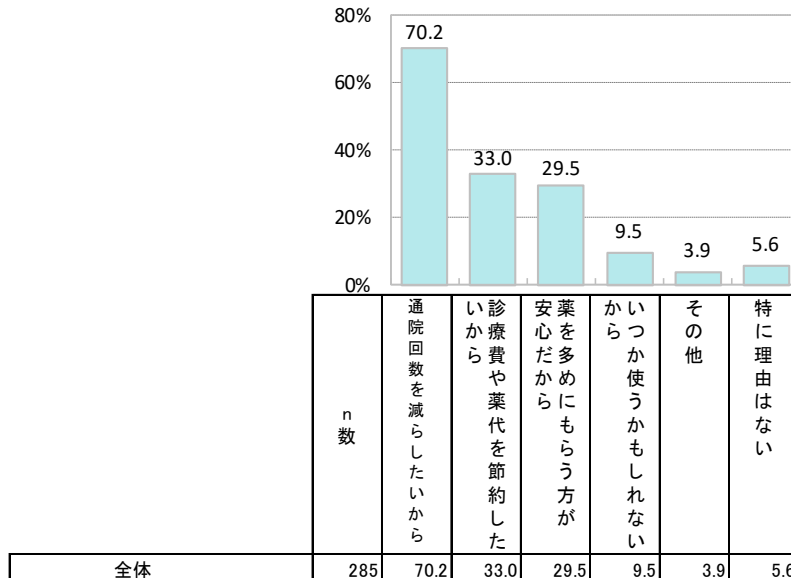
Q5. あなたが過去5年間に、医師の診察時に薬について要望した際、医師は要望通りに処方してくれましたか。(答えは1つ)

- 要望どりに薬を処方してもらえたかについては、「処方してくれることが多かった」が94.9%である。



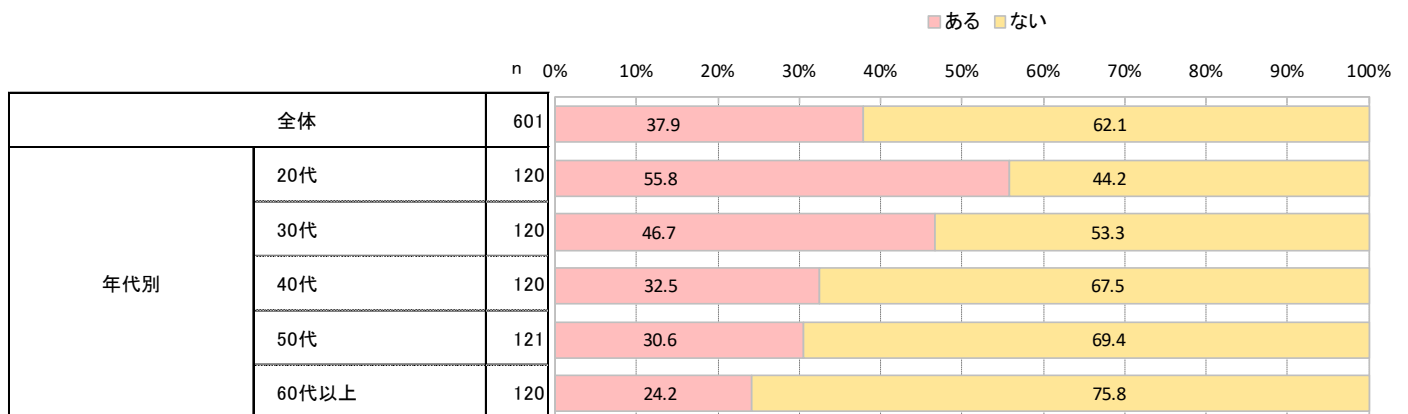
Q6. 過去5年間に、医師の診察時に薬についての要望として「できるだけ長い日数分の薬を出してもらおう」もしくは、「いま症状がなくても後で出るかもしれない症状の薬を念のため出してもらおう」ことが、よくあった／たまにあったと回答した方に伺います。その理由を教えてください。(答えはいくつでも)

- 長い日数分または念のため薬をもらった理由について最も多いのは、「通院回数を減らしたいから」(70.2%)である。次いで「診療費や薬代を節約したいから」(33.0%)、「薬を多めにもらう方が安心だから」(29.5%)、「いつか使うかもしれないから」(9.5%)と続く。



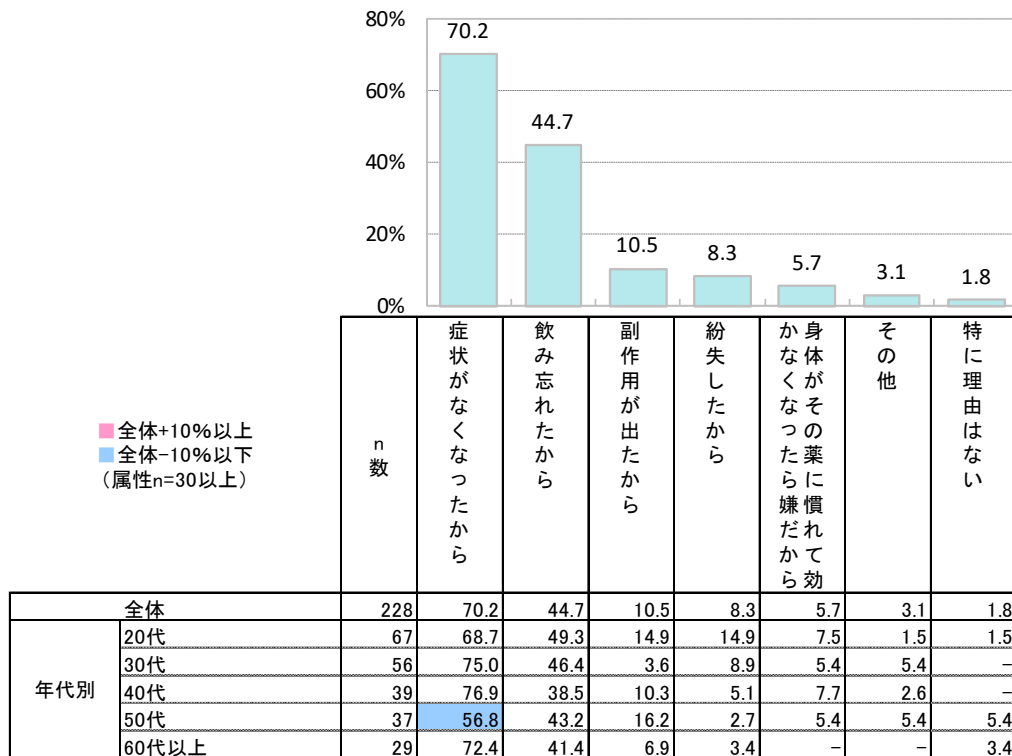
Q7. あなたは過去5年間に、医師や薬剤師から飲み切るよう指示されたにも関わらず、薬の服用を途中でやめて飲み切らなかった経験がありますか。(答えは1つ)

- 薬を飲みきらなかったことがあるのは37.9%である。
- 年代別でみると、20代は「ある」の割合が50%を超える。



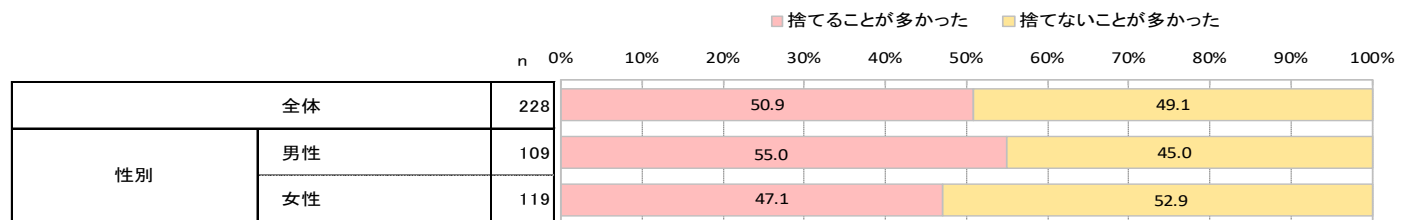
Q8. あなたが過去5年間に、医師や薬剤師から飲み切るよう指示されたにも関わらず、薬の服用を途中でやめて飲み切らなかった理由はなんですか。経験したことのある理由を全て教えてください。(答えはいくつでも)

- 薬を飲みきらなかった理由について最も多いのは、「症状がなくなったから」(70.2%)である。次いで「飲み忘れたから」(44.7%)、「副作用が出たから」(10.5%)、「紛失したから」(8.3%)と続く。



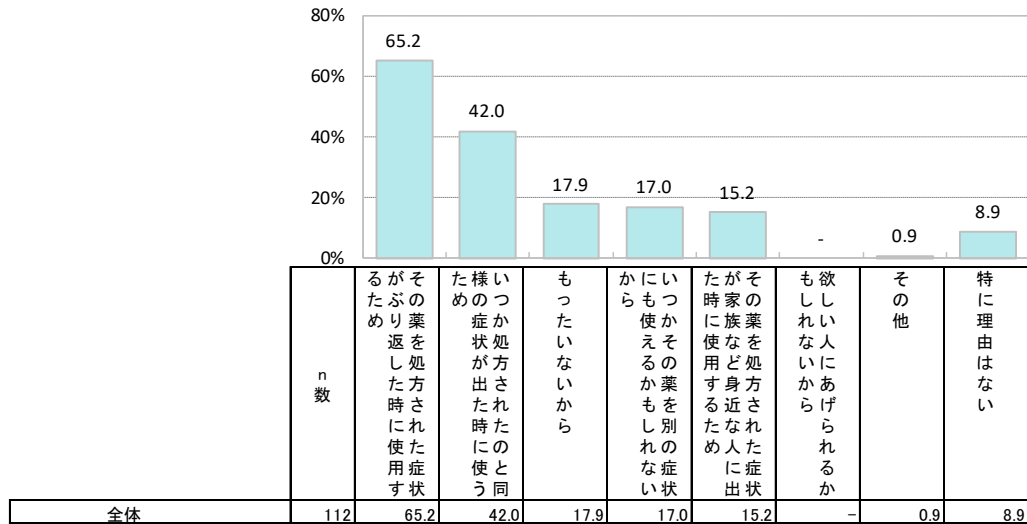
Q9. あなたは過去5年間に、医師や薬剤師から飲み切るよう指示された薬の服用を途中でやめて飲み切らなかった際、余った薬をどうしましたか。(答えは1つ)

- 性別で見ると、女性の方が「捨てないことが多かった」人の割合が高い。



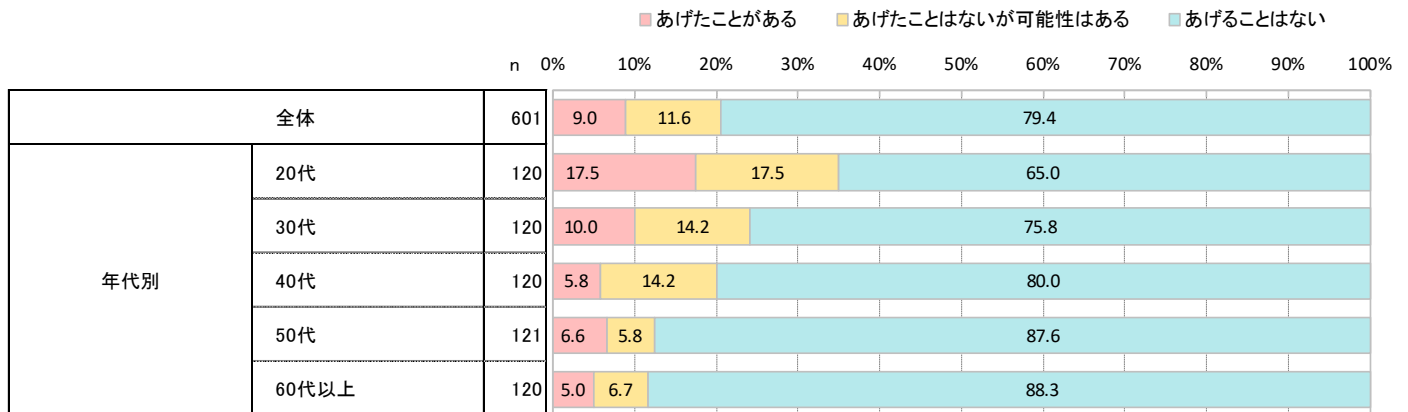
Q10. あなたが過去5年間に、医師や薬剤師から飲み切るよう指示された薬の服用を途中でやめて飲み切らなかった際、余った薬を捨てないことが多かった理由を教えてください。(答えはいくつでも)

- 余った薬を捨てなかった理由について最も多いのは、「その薬を処方された症状がぶり返した時に使用するため」(65.2%)である。次いで「いつか処方されたのと同様の症状が出た時に使うため」(42.0%)、「もったいないから」(17.9%)、「いつかその薬を別の症状にも使えるかもしれないから」(17.0%)と続く。



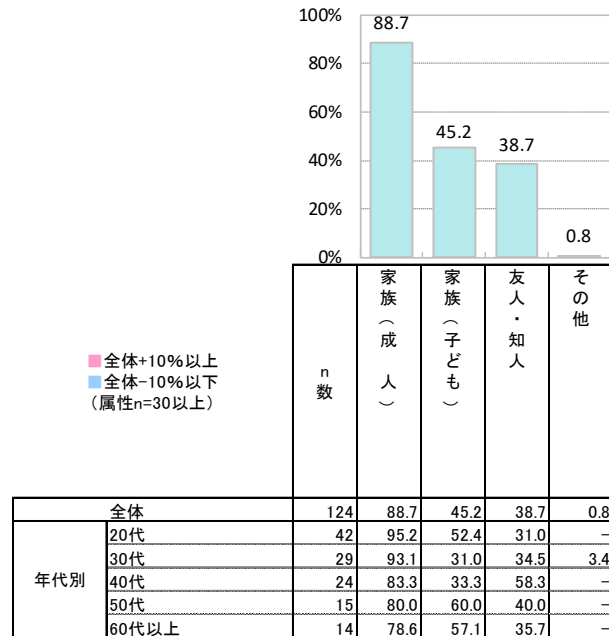
Q11. あなたに処方された薬を、似た症状が出ていたり、その他の理由で人にあげることがありますか。(答えは1つ)

- 処方された薬を他人にあげた経験については、「あげたことはないが可能性はある」(11.6%)、「あげたことがある」(9.0%)であった。



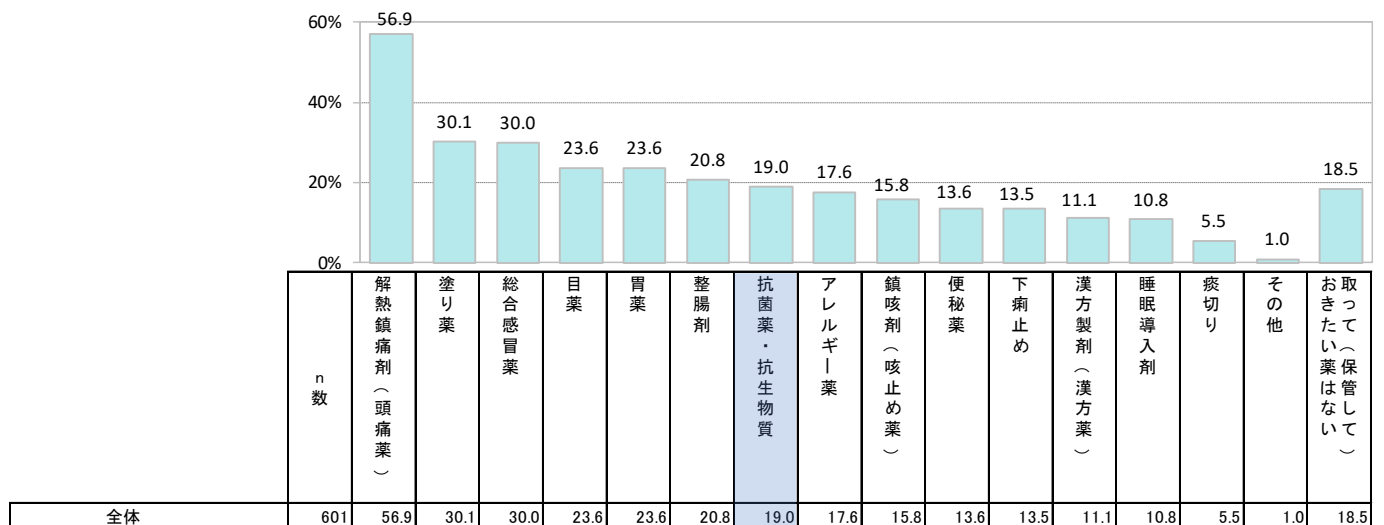
Q12. あなたが処方された薬をあげた、もしくはあげる可能性のある人をお答えください。
(答えはそれぞれいくつでも)

- 処方された薬を「あげたことがある」、「あげたことはないが可能性はある」と回答した人が、あげた、もしくはあげる可能性が最も高い相手は、「家族（成人）」(88.7%)である。次いで「家族(子ども)」(45.2%)、「友人・知人」(38.7%)と続く。

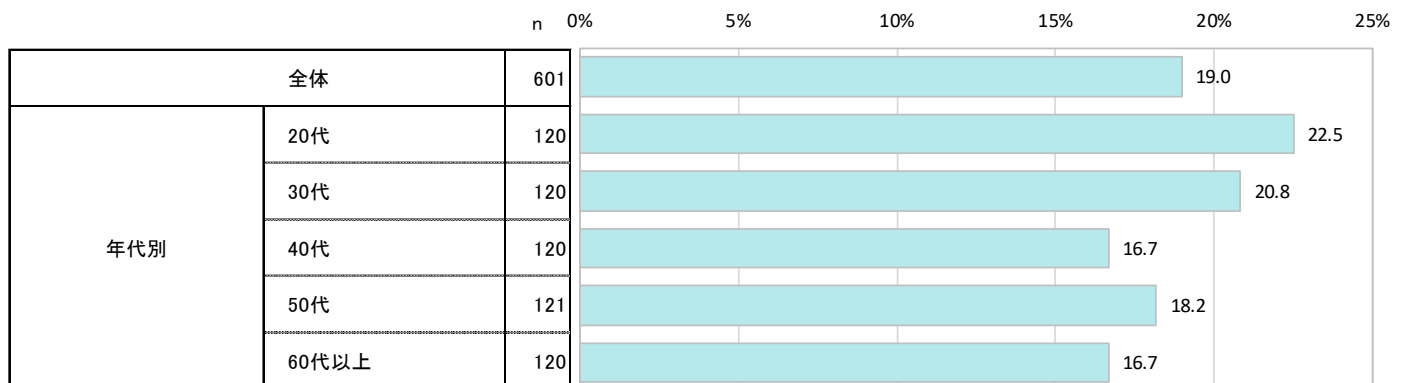


Q13. あなたが処方された薬で、余ったら捨てずに取って(保管して)おきたいと思う薬はありますか。
(答えはいくつでも)

■保管しておきたいと思う薬について最も多いのは、「解熱鎮痛剤（頭痛薬）」(56.9%)である。
次いで「塗り薬」(30.1%)、「総合感冒薬」(30.0%)、「胃薬」(23.6%)、「目薬」(23.6%)と続く。

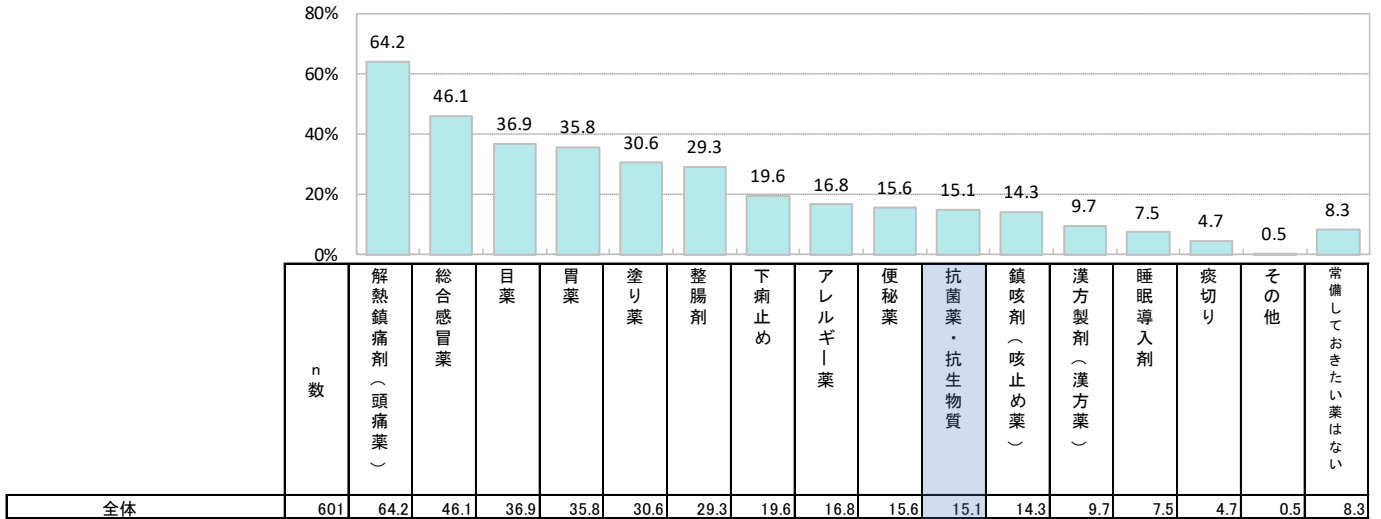


抗菌薬・抗生物質(年代別)

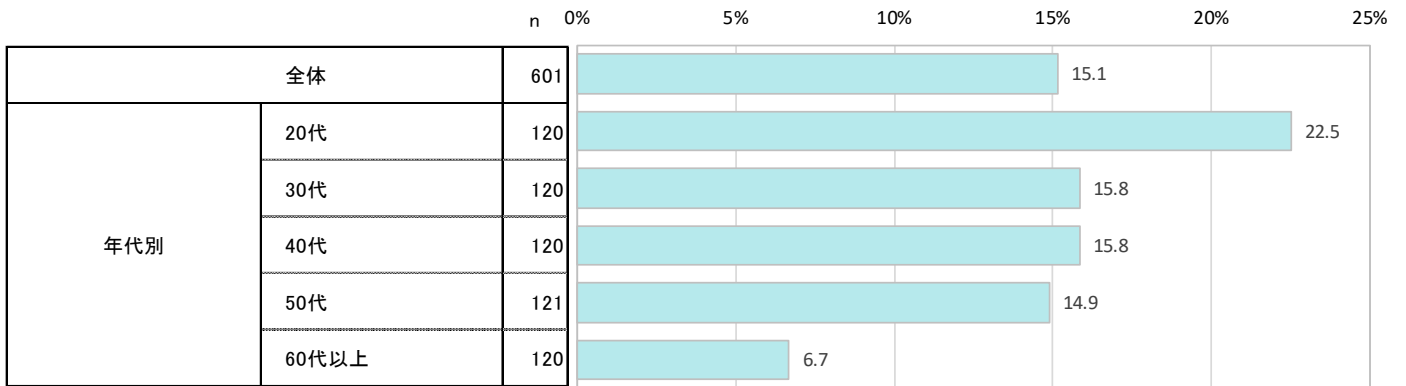


Q14. あなたが家に常備しておきたい薬はありますか。(答えはいくつでも)

- 常備しておきたい薬について最も多いのは、「解熱鎮痛剤(頭痛薬)」(64.2%)である。次いで「総合感冒薬」(46.1%)、「目薬」(36.9%)、「胃薬」(35.8%)と続く。
- 抗菌薬・抗生物質について年代別で見ると、20代は22.5%と他の年代よりも高かった。

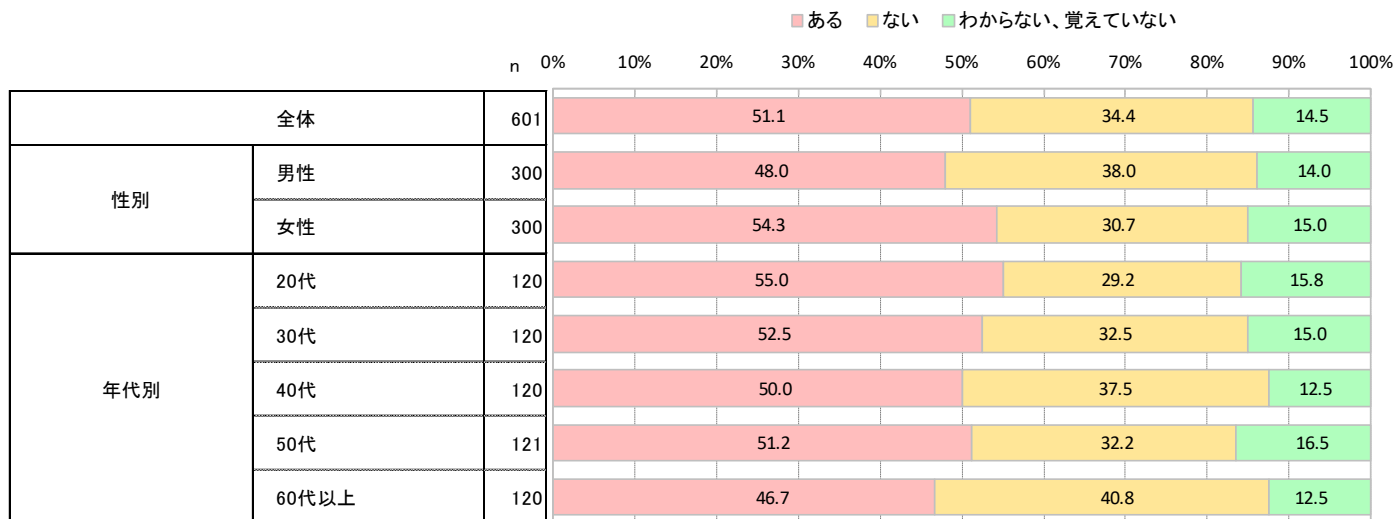


抗菌薬・抗生物質(年代別)



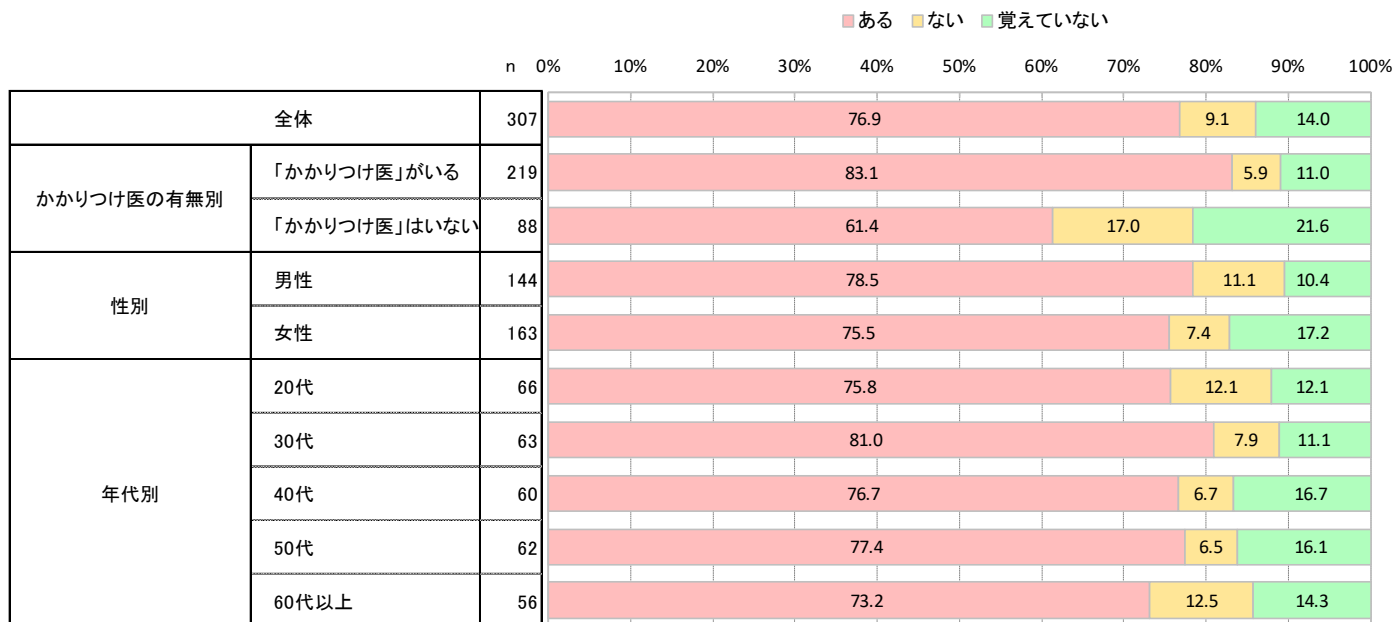
Q15. あなたは過去5年間に、抗菌薬(抗生物質)を処方されたことがありますか。(答えは1つ)

■ 51.1%の人が過去5年間に抗菌薬(抗生物質)を処方されている。



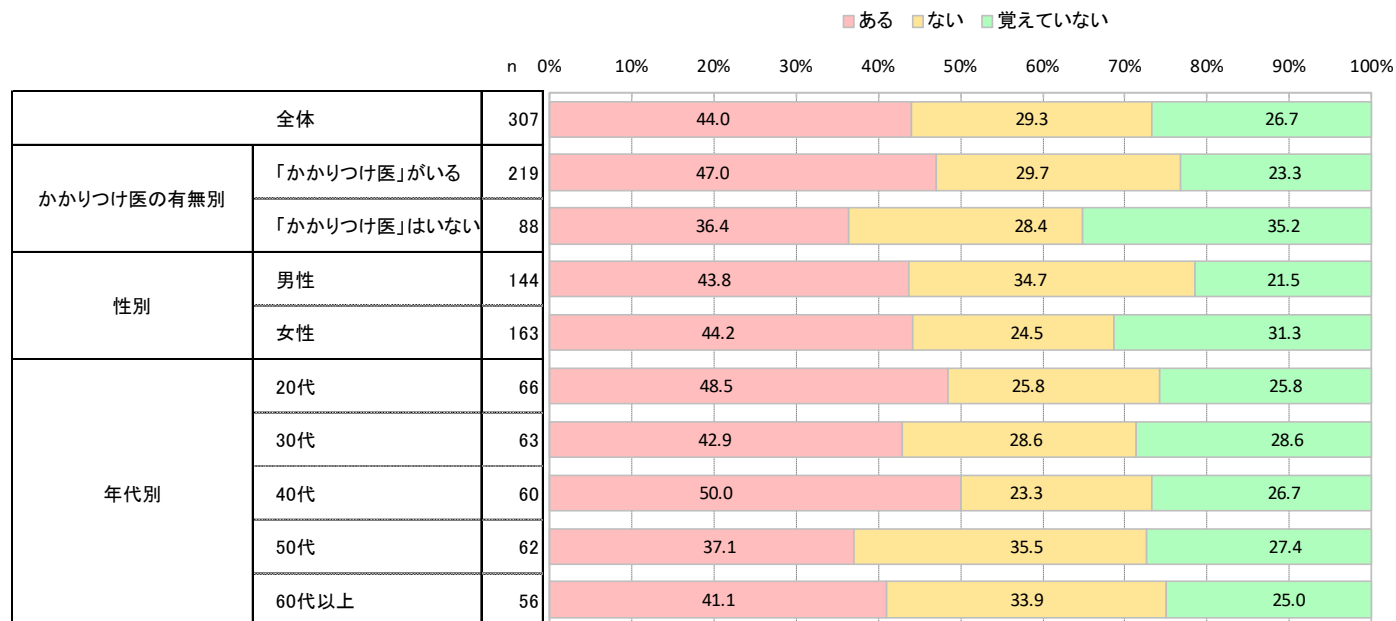
Q16s1. あなたは抗菌薬(抗生物質)を処方された際、医師や薬剤師から抗菌薬(抗生物質)を飲み切ることの説明を受けたことがありますか。(答えはそれぞれ1つ)

■ 抗菌薬(抗生物質)を処方された際に飲みきることの説明を受けているのは「かかりつけ医」がいる人で83.1%、いない人で61.4%であった。



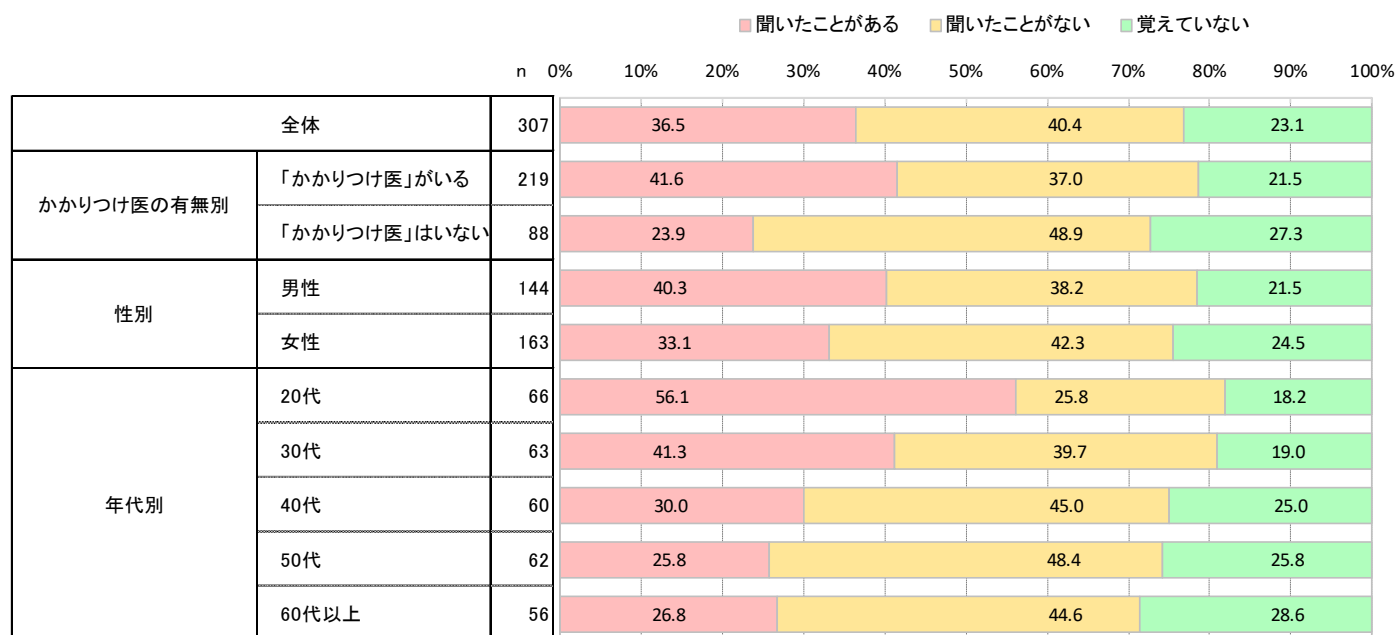
Q16s2. あなたは抗菌薬(抗生物質)を処方された際、医師や薬剤師から抗菌薬(抗生物質)の副作用(発疹・下痢・嘔吐など)に関する説明を受けたことがありますか。(答えはそれぞれ1つ)

■ 抗菌薬(抗生物質)を処方された際の副作用の説明を受けている人は全体で44.0%である。



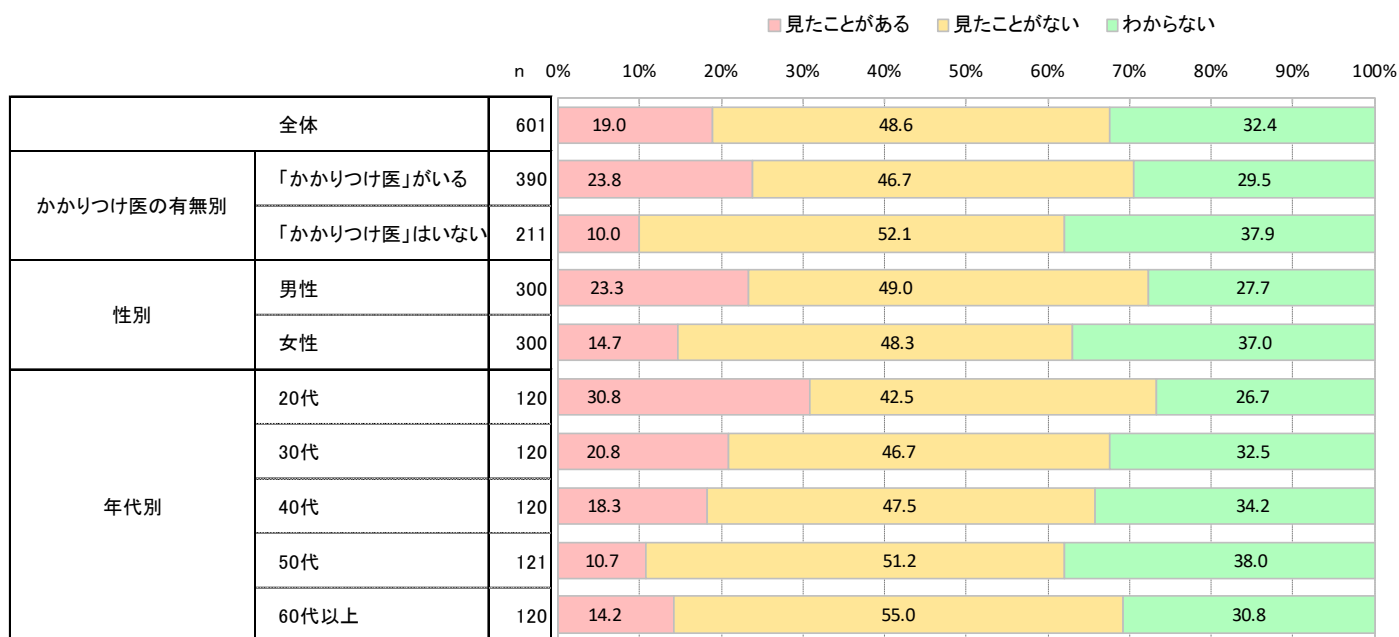
Q17. あなたは過去5年間に抗菌薬(抗生物質)を処方された際に、医師や薬剤師から病原菌の「薬剤耐性」に関する説明を受けたことがありますか。(答えは1つ)

- 薬剤耐性に対する説明を聞いたことがあるのは全体で36.5%である。
- 年代別でみると、20代は「聞いたことがある」の割合が56.1%と最も高い。
- また、「かかりつけ医」がいる人(41.6%)の方がいない人(23.9%)よりも多い。



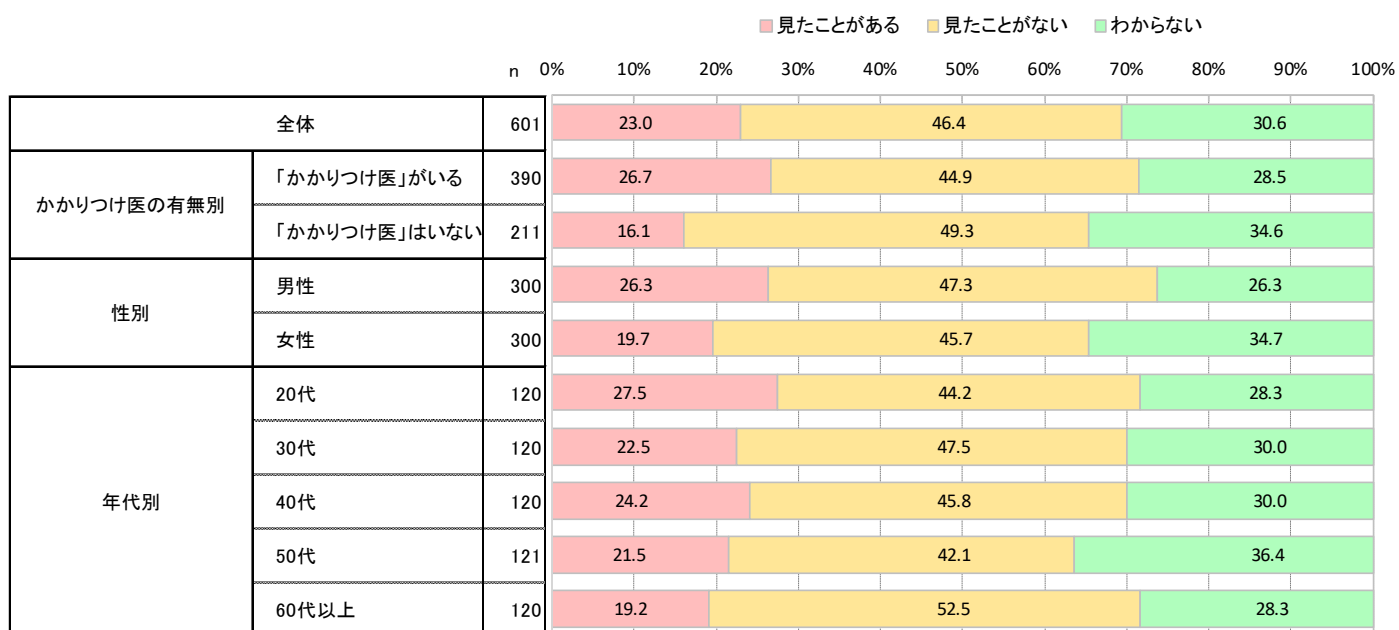
Q18s1. あなたは医療機関や薬局で「薬剤耐性」に関するポスターが貼られているのを見たことがありますか。
(答えはそれぞれ1つ)

- 薬剤耐性に関するポスターを「見たことがある」のは19.0%である。
- 「かかりつけ医」がいる人(23.8%)の方が、いない人(10.0%)よりも多い。



Q18s2. あなたはテレビ・新聞・インターネットなどのニュースや記事で「薬剤耐性」に関するものを見たことがありますか。
(答えはそれぞれ1つ)

- 薬剤耐性に関するニュースを「見たことがある」のは23.0%である。



Q19. あなたは処方された薬について自分で調べることがありますか。(答えはいくつでも)

- 処方された薬について「用法、作用(どのような仕組みで効くのか)」(46.6%)を調べるのが最も多い。次いで「副作用」(39.6%)、「処方されるケース(病気や症状)」(31.8%)、「禁忌」(11.5%)と続く。

